



令和8年度がスタートして2カ月半が過ぎました。最近気になっていることの一つに、遅刻する児童の増加が挙げられます。もちろん、それぞれに抱えている事情や重要な用事があるなどで事前に連絡をいただいている場合は除きます。しかし、遅刻が常習的になっていたり、悪びれる様子がなかったりする児童がおり、懸念を抱いています。

そこで改めて「なぜ遅刻がいけないのか。」ということについて考え、下記を参考にお家でも話していただければと思います。「遅刻がいけないことだ」という主張は、道徳的な価値判断を含んでいますので、絶対的な科学的証明があるわけではありません。しかし、遅刻が人間関係や組織に悪影響を与えることについては、さまざまな分野の研究や理論的根拠があります。また義務教育である小学校では、道徳的な価値判断を養っていくことも、非常に重要なことだと考え教育活動を進めています。

1. 他者の時間を奪う

待っている人の時間が失われます。また、遅刻した人の対応をする人の時間を費やすこととなります。大人の社会で言えば、5人が10分待たされた場合、合計 50 分の人的資源が失われます。このような「待ち時間コスト」は、組織の生産性低下要因として広く認識されています。

「子どもだから仕方ない」ではなく、「子どものころから学ぶ」ということが大切だと考えます。

2. 信頼性の低下

人は相手を評価するとき、「約束を守るか」を重要な判断材料にします。

遅刻を繰り返す人は、

- ・責任感が低い
- ・相手を尊重していない
- ・計画性がない

と評価されやすいことが、対人認知研究で示されています。実際に、採用面接や職場評価でも、時間厳守は誠実性の指標の一つとして扱われています。

3. チームパフォーマンスへの悪影響

会議(学校では授業)開始の遅延やメンバーの遅刻は、

- ・会議(授業)の効率低下
- ・他のメンバーの不満増加
- ・集団規範の崩壊

につながることを研究されています。

特にリーダー的存在の遅刻は、さらに時間規律を弱める傾向があります。

4. 社会的な互惠性の原則

社会は「お互いが約束を守る」という前提で成り立っています。言わば「おたがいさま」の気持ちで成り立っているということです。多くの人が約束を守らなければ学校で言えば、授業等が機能しにくくなります。社会学でいう「協力行動」や「社会規範」の維持に関わる問題です。子どもたちに、そしてわれわれも「おたがいさま」の気持ちを持てるように、持ち続けられるようにしたいものです。

遅刻の原因が生活習慣などでお困りの場合、学校へご相談ください。一緒に考えましょう。

時間を守ることは約束を守ることです。その積み重ねが信頼につながります。

高倉小学校の子どもたちには、約束を守り、信頼される人に育ってほしいと思います。

